

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3610123667	
法人名	医療法人 道志社 リハビリテーション大神子病院	
事業所名	グループホーム大神子	
所在地	徳島県徳島市大原町大神子16番地2	
自己評価作成日	平成26年11月1日	評価結果市町村受理日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は、大神子海岸や日の峰大神子広域公園の近隣に位置し自然に恵まれ、散歩すると季節を感じる事ができます。事業所の隣には保育所があり園児が遊んでいる所をフローヤや居室から見ることができ、園児との交流により楽しい時間を過ごしています。母体法人の医療機関等で行われている行事では、花見や夏祭りに利用者と一緒に参加し、室内でのレクリエーションも利用者一人ひとりに合わせた個別レクリエーションに力を入れています。毎週日曜日には、喫茶コーナーを設け、第三日曜日には利用者と一緒にお菓子作りを行い、いつも楽しみにされています。緊急時には、母体法人の医療機関と連携を図り、すぐに対応できるため利用者や家族の安心に繋がっています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、山間部の中腹に位置しており、周囲には海岸や公園等がある。同一法人の運営する医療機関や他サービス事業所が併設している。24時間の対応が可能な医療連携体制を整備しているため、利用者や家族の安心に繋がっている。職員は、本人や家族から、今までの生活スタイルや習慣を聞いたり、日頃の利用者との関わりを通じて、希望や意向の把握に努めている。利用者は、地域の子どもたちとともに行事を楽しんだり、明るい雰囲気の中でお菓子作りをしたりしている。利用者は、それぞれの作品を作品展に出展したり、希望に応じて外出をしたりしており、穏やかで笑顔の多い生活を送っている。また、代表者や管理者、職員はコミュニケーションを十分にとっており、良好な関係を築いている。実習生や研修生を積極的に受け入れており、地域との交流も盛んに行っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会	
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階	
訪問調査日	平成26年11月11日	

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			嘉壽 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時には、理念・事業所の目標を唱和し、全職員で目的を確認し合い共有し実践に繋げるよう取り組んでいる。	全職員で地域密着型サービスの意義について確認したうえで、独自の理念や具体的な方針を掲げている。毎日、朝礼時に理念を唱和し、職員間で共有化を図って日頃の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	散歩時には、地域住民と挨拶を交わし、積極的に話しかけている。行事や運営推進会議等への参加をお願いしている。	日頃から、利用者は事業所周辺の散歩を楽しんだり、地域の子どもの交流を図ったりしている。事業所では、小学生や認知症介護実践研修等の研修生を受け入れるなど、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	朝・夕方と申し送り後や勉強会はもちろん運営推進会議で認知症について話をしたり、毎月、利用者の俳句を新聞広告や生け花をボランティアの方と行き、作品展へ出す等地域の方に知って頂けるよう働きかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を行い、利用者や家族、地域住民の代表、地域包括支援センターの職員の参加者からの助言や意見を聞き、全職員が共有し、質の向上を図っている。	年6回、運営推進会議を開催している。利用者や家族、地域住民、市担当者等の出席を得ており、事業所の状況報告や情報交換を行っている。出席者から助言や意見を出してもらい、職員会議の機会に職員間で話しあってサービスの質の向上に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月はじめに、入退居状況の報告や2ヶ月に1回の運営推進会議議事録、ホーム便り等の報告書を送付する時、取り組み内容についての報告を積極的に行い、協力関係が継続できるよう体制作りを図っている。	事業所の職員は、日頃から市窓口へ出向いて密に連携を図るよう心がけている。事業所便りなどでサービスの現状を報告したり、サポーター研修等の相談を行ったりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者一人ひとりの精神面を重視し、行動や状態の把握に努め、玄関は電子ロック式となっているが希望に応じて付き添い外へ出るようにしている。安全、安心な生活が送れるよう取り組んでいる	年1回、身体拘束の廃止等に関する内部研修を実施している。全職員が身体拘束の弊害を理解し、利用者に寄り沿いつつ自由な暮らしを支えることができるよう努めている。また、マニュアルを作成したり、人権を尊重した取り組みを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内外の研修に参加し、全職員間で勉強会を行い、虐待防止を徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			嘉壽 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用している入居者は2名である。法人の社会福祉士より日常生活自立支援事業、成年後見制度について研修を受け個々の必要について、職員は情報を共有し、活用出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に話し合う時間を設けて、利用者、家族の気持ちを重視し、契約・解約時は不安の軽減できるよう相談にのっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置している。又、年に1回アンケートを実施しており、アンケート結果を玄関に掲示し家族会でも報告を行い、意見をいただいている。	年2回の家族会や面会時に、意見や要望を伺う機会を設けている。年1回、アンケート調査を実施し、利用者や家族が希望・意見等を伝えやすくできるよう配慮している。出された意見等は、朝礼や職員会議で検討し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝、夕方の申し送り時や法人代表を交えての2ヶ月に1回の全職員による全体会議を開き、職員間で話し合う機会を設けている。個別の相談にも応じ、意見、提案を通して運営に活かしている。	2か月に1回の職員会議や朝礼時、個別面談等の機会を設け、職員の意見を把握するようにしている。業務中にも職員の意見に耳を傾け、自主性を尊重し、働く意欲の向上や質の確保に努めている。職員一人ひとりの力量を十分に活かしつつ、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況、実績を把握し、研修会への参加を積極的に行い、向上心をもって働ける環境作りを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修には、積極的に参加し、受講後は資料を通して伝達、勉強会を行い、月1回は事業所内で職員が主に、認知症の内容で議題を決めて、勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修、津田地区在宅医療ネットワーク構築支援研修会や勉強会に参加している。他のグループホームの運営推進会議に出席、又、来ていただき意見交換を行い、質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			嘉寿 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者や家族との話し合いの場を設けて、ご意見や状態を聞き、要望に添えるよう務めている。困っていることや不安なこと等をゆっくりと時間をかけお話を聞き、安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の生活への要望と家族の生活に対する要望をお聞きし、お互いに生活の流れや行事等を安心して理解していただけるよう面談や書面、電話連絡を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	母体法人の病院と連携し、リハビリや美容車での散髪、買い物外出等、利用者と家族の望んでいる支援を把握し、必要に応じ行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの「できること」を主にし、担当職員との関わりを大切にしている。全職員が「その人らしさ」を大切にし、一緒に家事やレクリエーションを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時は生活状況の報告を行っておりホーム便りでは行事参加の様子を写真付きで送っている。利用者誕生日には誕生日会の参加をさせていただき関わりの機会と一緒に利用者を支えるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人、友人の来訪時には、ゆっくり過ごしていただけるよう雰囲気作りが心がけ、馴染みの場所、自宅、墓参り等への外出も連絡を取り合い行っている。	家族の協力も得たうえで、お墓参りに出かけている。また、携帯電話の使用や、年賀状、俳句等の趣味活動も家族とともに支援している。また、利用者の友人の来訪もあり、利用者がこれまで培ってきた人間関係や地域社会との関係性を継続することができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	歌、体操が好きな利用者やぬり絵や物作りが好きな利用者、それぞれが集まって談笑をしながら一緒に行える雰囲気作り、関係作りを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			嘉寿 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等によりサービスが終了しても、連携を取り、生活状況や利用者の好みやこれまでのケアの工夫などの情報を詳しく報告したり、相談も行っている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者、計画作成担当者、担当職員を中心に利用者の生活歴、既往歴の情報収集を行い全職員に伝達しホームの生活で「できること」を重視し要望に沿ってのケアを行っている。朝礼時にも話し合いを行っている。	本人や家族から、今までの生活スタイルや習慣を聞いたり、日頃の利用者との関わりを通じて、希望や意向の把握に努めたりしている。意思の表出が困難な利用者には、行動や些細な表情等から重いをくみ取り、その人らしい暮らしが送れるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当職員により、センター方式を活用し、プライバシーに配慮しながら利用者、家族にお話を聞き、全職員で把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりにバイタルチェックをし心身状態の観察を行い、1日の中での表情や行動も観察、申し送りをしている。又、出来る事、出来そうな事を考えチームとしての把握ができるよう話し合いを行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回モニタリング、アセスメントをカンファレンスの際に話し合っている。利用者の意向に沿って介護計画書を作成し、介護計画書の見直し点の内容等をご家族へ説明し、意見を伺っている。	職員は、本人の発する言葉に注意深く耳を傾けて、これまでの暮らし方と今後への希望の把握に努めている。利用者のできることに着目し、本人や家族、主治医、関係者間で話しあって介護計画書を作成している。3か月に1回、計画書を見直している。なお、本人の心身状態の変化に応じて計画書を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子や利用者の生活を詳しく記録し、情報の共有を全職員で図り、実践につなげている。又、朝、夕の申し送りを行い、利用者一人ひとりのケアに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の要望や状態に応じ、家族と情報を共有しお買いの外出等を行っている。急な要望にも臨機応変に対応し、予定日以外の外出等も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			嘉壽 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などを通じて、市役所及び地域の方の協力を得ながら、安心して生活が楽しむことができるよう支援を行なっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体法人の医療機関を定期的に受診している。また利用者、家族の希望する医療を受けられるよう、家族や職員が付き添っている。	利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。協力医療機関と連携し、緊急時には24時間の対応が可能な連携体制を整備している。通院時には、家族の協力を得て対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であり、健康管理や医療面での相談、対応を行っている。職員は、利用者の変化を逃さないよう早期発見に努め、報告、連絡、相談を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お見舞いに行き、心身の状態を確認し、申し送り時に報告をしている。医師、看護師からの情報と共に家族へお伝えしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時より、利用者、家族に十分に説明を行い、意向を尊重し医療機関と連携を図っている。又、看取りが必要となった場合についての内容を説明し、同意を得ている。	終末期の指針を整備し、契約時の段階で同意を得ている。心身状態の段階に応じて、本人や家族の意向を確認している。かかりつけ医や関係者と相談し、対応方針の共有化を図っている。本人や家族の意向に沿うことができるよう関係者間で連携を図って支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師より初期対応の研修を受けたり、病院看護師からの応急手当の研修に参加し伝達して知識、実践力の向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、避難訓練を利用者と共に行い、一つ一つの動きを確認している。消防署立ち合いのもと同一敷地内の他事業所と協力し行えるよう計画、実践し、全職員が共有できるよう行い、地域の方との連携も図っている	年2回、消防署の協力を得て、同一法人の運営する他事業所内に組成された防災委員会と協働し、日中と夜間を想定した避難訓練を実施している。毎月、事業所単独の避難訓練を実施している。また、積極的に勉強会を行ったり、災害時に備えて備蓄品を整備したりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			嘉寿 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者、一人ひとりの気持ち、行動を大切に言葉かけをする。 本人の尊厳を守ってコミュニケーションを図る	利用者一人ひとりの性格や習慣、意見等の尊重に努めている。自尊心を傷つせず、自己決定の場を増やす取り組みを行っている。個人情報保護やプライバシー確保等に関する研修会を開催し、サービスの質の向上に活かすよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自らの想いや意向を伝えたり、表現したり、意思決定ができるよう利用者一人ひとりのお話を聞き、支援を行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位で、日々の小さなことでも達成感を感じられるよう、一人ひとりに合わせた「できること」を重視し、支援を図っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者に朝の洗顔などの声掛けを行い、服装も利用者を選んでもらい、生活していることへの意欲の向上に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台拭きでテーブル拭きや食事の片付け、盛り付け等をお手伝いしていただけるよう利用者に声をお掛けし職員と一緒にしている。	事業所では、栄養会議を設けるなどの工夫を行って、栄養士とともに旬の食材や利用者の好みを取り入れた献立を立てている。利用者と職員でお菓子を作ったり、行事食やバイキングなどで五感刺激に考慮したりして、利用者が役割を担いつつ楽しく食事を取ることができるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を個別記録に記録しており、全体を通して1日に必要な摂取量ができているか、職員間で話し合い、知識、意識の向上に努めている。また病状により必要な水分量は担当医と相談を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	法人内の口腔ケア研修会に参加し、指導をうけ、一人ひとりの状態に応じたケアを行い、毎食後の歯磨き誘導し、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			嘉寿 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者、一人ひとりの行動や仕草により、トイレ誘導を行い自立に向けた支援を心がけている。また排泄表を確認し、トイレの声掛けも行っている。	利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとりの状況に応じて可能な限りトイレで排泄することができるよう支援している。職員は、介助の際にはさりげない声かけを行うなどの配慮を行い、プライバシーを損なうことのないような支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者一人ひとりの排便記録を確認し、水分補給や散歩、体操等のレクリエーションや下剤の調節など、個々に応じた便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の体調を考慮し、拒否があった際は時間をおき再度声をかけている。一人ひとりにあった支援を行いリラックスできるように季節に応じて、ゆず湯、菖蒲湯等でも楽しんでいただけるよう支援を行なっている。	利用者一人ひとりの希望や状況に応じて入浴を楽しむことができるよう支援している。季節に応じて、ゆず湯や菖蒲湯等を提供している。入浴を拒む利用者には、声かけや気分転換を図るなどして、本人の意向にそって入浴することができるようにしている。プライバシーに留意しつつ入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるよう、利用者の体調の変化に気を配り声をかけ、見守りを行なっている。日々穏やかに過ごしていただけるよう寄り添い、コミュニケーションを図っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの病状、薬の用法・用量についても把握し、服薬時は氏名、日付の声だし確認を行い服薬支援を行なっている。症状に変化が見られる時はその都度、医師・看護師・薬剤師に相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、テーブル拭き、ゴミ出し等、1人ひとりの状態に応じてお伝えして一緒に行なっている。ぬり絵や裁縫、お菓子作り、野菜作り、散歩などを楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の要望に応じて、外食やお買い物外出などを楽しまれている。また、神社への参拝や墓参り、馴染みのある町並みのドライブの支援も行っている。	天候の良い日には散歩に行くなどして気分転換できるようにしている。また、希望に応じてお墓参りや買い物、季節の外出行事を行い、利用者に喜んでもらうことができるよう支援している。その人らしい暮らしを保ち、生き生きと暮らすことができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			嘉寿 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族等より預かったお金を金庫にて保管しており、買い物外出の際にお渡しし、支払いをしていただける仕組みをとっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞い、年賀状も書いていただいている。利用者の希望で電話連絡の支援を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室前のドアに好きな歌手のポスターを貼ったり居室に馴染みの物を飾り、共同空間、玄関では季節に合った利用者が作成した作品、行事の写真、生花を置き、温かみのある空間作りを行なっている。室内の温度調節、テレビの音量にも配慮している。	共用空間には、利用者と職員が作成した季節の作品や写真が飾っており、四季を感じることができる。フロアやトイレなど、隅々まで清掃が行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い食堂にマッサージ機やソファが置かれ思い、思いに過ごされる。また気が合う方同士はソファで話しをされたり、童謡を合唱されたりと楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の状況に合わせ慣れ親しんだ家具、椅子、置物を用意していただき、本人の時間が過ごせるように工夫している。ご本人が居心地がよい雰囲気となるよう家族に協力していただき家具の配置にも配慮している。	利用者は、居室に馴染みの家具や写真、ぬいぐるみなどを持ちこんでいる。安全面に配慮して家具の配置を工夫するなどの環境整備への工夫も見受けられる。事業所では、利用者が安全な環境のなかで居心地良く過ごすことができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの体調に配慮し、利用者の生活のペースを乱すことなく、押し付けにならない支援をしている。又、混乱が生じた場合は、職員間で話し合いを行い、利用者の力や意欲を損ねないよう支援を行っている。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	福壽	自己評価	実践状況
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
<b>I 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時には、理念・事業所の目標を唱和し、全職員で目的を確認し合い共有し実践に繋げるよう取り組んでいる。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時には、地域住民と挨拶を交わし、積極的に話しかけている。行事や運営推進会議等への参加をお願いしている。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	朝・夕方と申し送り後や勉強会はもちろん運営推進会議で認知症について話しをしたり、毎月、利用者の俳句を新聞広告や生け花をボランティアの方と行き、作品展へ出す等地域の方に知って頂けるよう働きかけている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を行い、利用者や家族、地域住民の代表、地域包括支援センターの職員の参加者からの助言や意見を聞き、全職員が共有し、質の向上を図っている。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月はじめに、入退居状況の報告や2ヶ月に1回の運営推進会議議事録、ホーム便り等の報告書を送付する時、取り組み内容についての報告を積極的に行い、協力関係が継続できるよう体制作りを図っている。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者一人ひとりの精神面を重視し、行動や状態の把握に努め、玄関は電子ロック式となっているが希望に応じて付き添い外へ出るようにしている。安全、安心な生活が送れるよう取り組んでいる			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内外の研修に参加し、全職員間で勉強会を行い、虐待防止を徹底している。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			福壽 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用している入居者は1名である。法人の社会福祉士より日常生活自立支援事業、成年後見制度について研修を受け個々の必要について、職員は情報を共有し、活用出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に話し合う時間を設けて、利用者、家族の気持ちを重視し、契約・解約時は不安の軽減できるよう相談にのっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置している。又、年に1回アンケートを実施しており、アンケート結果を玄関に掲示し家族会でも報告を行い、意見をいただいている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝、夕方の申し送り時や法人代表を交えての2ヶ月に1回の全職員による全体会議を開き、職員間で話し合う機会を設けている。個別の相談にも応じ、意見、提案を通して運営に活かしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況、実績を把握し、研修会への参加を積極的に行い、向上心をもって働ける環境作りを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修には、積極的に参加し、受講後は資料を通して伝達、勉強会を行い、月1回は事業所内で職員が主に、認知症の内容で議題を決めて、勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修、津田地区在宅医療ネットワーク構築支援研修会や勉強会に参加している。他のグループホームの運営推進会議に出席、又、来ていただき意見交換を行い、質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	福壽	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	実践状況
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者や家族との話し合いの場を設けて、ご意見や状態を聞き、要望に添えるよう務めている。困っていることや不安なこと等をゆっくりと時間をかけお話を聞き、安心して生活できるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の生活への要望と家族の生活に対する要望をお聞きし、お互いに生活の流れや行事等を安心して理解していただけるよう面談や書面、電話連絡を行っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	母体法人の病院と連携し、リハビリや美容車での散髪、買い物外出等、利用者と家族の望んでいる支援を把握し、必要に応じ行えるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの「できること」を主にし、担当職員との関わりを大切にしている。全職員が「その人らしさ」を大切に、一緒に家事やレクリエーションを行っている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時は生活状況の報告を行っておりホーム便りでは行事参加の様子を写真付きで送っている。利用者誕生日月には誕生日会の参加をしていただき関わりの機会と一緒に利用者を支えるよう努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人、友人の来訪時には、ゆっくり過ごしていただけるよう雰囲気作り心がけ、馴染みの場所、自宅、墓参り等への外出も連絡を取り合い行っている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	歌、体操が好きな利用者やぬり絵や物作りが好きな利用者、それぞれが集まって談笑をしながら一緒に行える雰囲気作り、関係作りを図っている。			

自己	外部	項目	自己評価	福壽	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている		長期入院等によりサービスが終了しても、連携を取り、生活状況や利用者の好みやこれまでのケアの工夫などの情報を詳しく報告したり、相談も行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している		管理者、計画作成担当者、担当職員を中心に利用者の生活歴、既往歴の情報収集を行い全職員に伝達しホームの生活で「できること」を重視し要望に沿ってのケアを行っている。朝礼時にも話し合いを行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている		担当職員により、センター方式を活用し、プライバシーに配慮しながら利用者、家族にお話を聞き、全職員で把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている		一人ひとりにバイタルチェックをし心身状態の観察を行い、1日の中での表情や行動も観察、申し送りをしている。又、出来る事、出来そうな事の部分を考えチームとしての把握ができるよう話し合いを行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している		3ヶ月に1回モニタリング、アセスメントをカンファレンスの際に話し合っている。利用者の意向に沿って介護計画書を作成し、介護計画書の見直し点の内容等をご家族へ説明し、意見を伺っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		日々の暮らしの様子や利用者の生活を詳しく記録し、情報の共有を全職員で図り、実践につなげている。又、朝、夕の申し送りを行い、利用者一人ひとりのケアに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる		利用者の要望や状態に応じ、家族と情報を共有しお買いもの外出等を行っている。急な要望にも臨機応変に対応し、予定日以外の外出等も行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	福壽	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		運営推進会議などを通じて、市役所及び地域の方の協力を得ながら、安心して生活を楽しむことができるよう支援を行なっている。				
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している		母体法人の医療機関を定期的に受診している。また利用者、家族の希望する医療を受けられるよう、家族や職員が付き添っている。				
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している		管理者が看護師であり、健康管理や医療面での相談、対応を行っている。職員は、利用者の変化を逃さないよう早期発見に努め、報告、連絡、相談を行なっている。				
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。		お見舞いに行き、心身の状態を確認し、申し送り時に報告をしている。医師、看護師からの情報と共に家族へお伝えしている。				
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる		入所時より、利用者、家族に十分に説明を行い、意向を尊重し医療機関と連携を図っている。又、看取りが必要となった場合についての内容を説明し、同意を得ている。				
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている		看護師より初期対応の研修を受けたり、病院看護師からの応急手当の研修に参加し伝達して知識、実践力の向上に努めている。				
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている		毎月、避難訓練を利用者と共に行い、一つ一つの動きを確認している。消防署立ち合いのもと同一敷地内の他事業所と協力し行えるよう計画、実践し、全職員が共有できるよう行い、地域の方との連携も図っている				

自己	外部	項目	自己評価	福壽	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>								
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者、一人ひとりの気持ち、行動を大切に言葉かけをする。 本人の尊厳を守ってコミュニケーションを図る					
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自らの想いや意向を伝えたり、表現したり、意思決定ができるよう利用者一人ひとりのお話を聞き、支援を行なっている。					
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位で、日々の小さなことでも達成感を感じられるよう、一人ひとりに合わせた「できること」を重視し、支援を図っている。					
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者に朝の洗顔などの声掛けを行い、服装も利用者を選んでもらい、生活していることへの意欲の向上に努めている。					
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台拭きでテーブル拭きや食事の片付け、盛り付け等をお手伝いしていただけるよう利用者に声をお掛けし職員と一緒にやっている。					
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を個別記録に記録しており、全体を通して1日に必要な摂取量ができているか、職員間で話し合い、知識、意識の向上に努めている。また病状により必要な水分量は担当医と相談を行っている。					
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	法人内の口腔ケア研修会に参加し、指導をうけ、一人ひとりの状態に応じたケアを行い、毎食後の歯磨き誘導し、清潔保持に努めている。					

自己	外部	項目	自己評価	福壽	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者、一人ひとりの行動や仕草により、トイレ誘導を行い自立に向けた支援を心がけている。また排泄表を確認し、トイレの声掛けも行っている。					
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者一人ひとりの排便記録を確認し、水分補給や散歩、体操等のレクリエーションや下剤の調節など、個々に応じた便秘予防に取り組んでいる。					
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の体調を考慮し、拒否があった際は時間をおき再度声をかけている。一人ひとりにあった支援を行いリラックスできるように季節に応じて、ゆず湯、菖蒲湯等でも楽しんでいただけるよう支援を行なっている。					
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるよう、利用者の体調の変化に気を配り声をかけ、見守りを行なっている。日々穏やかに過ごしていただけるよう寄り添い、コミュニケーションを図っている。					
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの病状、薬の用法・用量についても把握し、服薬時は氏名、日付の声だし確認を行い服薬支援を行なっている。症状に変化が見られる時はその都度、医師・看護師・薬剤師に相談をしている。					
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、テーブル拭き、ゴミ出し等、1人ひとりの状態に応じてお伝えして一緒に行なっている。ぬり絵や裁縫、お菓子作り、野菜作り、散歩などを楽しんでいただいている。					
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の要望に応じて、外食やお買い物外出などを楽しませている。また、神社への参拝や墓参り、馴染みのある町並みのドライブの支援も行っている。					

自己	外部	項目	自己評価	福壽	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		家族等より預かったお金を金庫にて保管しており、買い物外出の際にお渡しし、支払いをしていただける仕組みをとっている。				
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている		暑中見舞い、年賀状も書いていただいている。 利用者の希望で電話連絡の支援を行なっている。				
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		居室前のドアに好きな歌手のポスターを貼ったり居室に馴染みの物を飾り、共同空間、玄関では季節に合った利用者が作成した作品、行事の写真、生花を置き、温かみのある空間作りを行なっている。室内の温度調節、テレビの音量にも配慮している。				
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		広い食堂にマッサージ機やソファが置かれ思い、思いに過ごされる。また気が合う方同士はソファで話しをされたり、童謡を合唱されたりと楽しんでいる。				
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		利用者の状況に合わせ慣れ親しんだ家具、椅子、置物を用意していただき、本人の時間が過ごせるように工夫している。ご本人が居心地がよい雰囲気となるよう家族に協力していただき家具の配置にも配慮している。				
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		一人ひとりの体調に配慮し、利用者の生活のペースを乱すことなく、押し付けにならない支援をしている。又、混乱が生じた場合は、職員間で話し合いを行い、利用者の力や意欲を損ねないよう支援を行っている。				